

令和8年度 学校関係者評価

中津市立沖代小学校

1 学校の教育目標 自ら学び共に学ぶ、豊かな心を持った児童の育成

2 育成を目指す資質・能力 問題発見解決力・人間関係・社会形成能力

3 重点目標・達成指標、重点的取組等

評定判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～ 89%
C	…達成率60～ 69%
D	…達成率60%未満

生きて働く知識・技能の習得
思考力・判断力・表現力
学びに向かう力、人間性等の涵養
働き方改革の推進

重点目標	達成指標		重点的取組		評価	成果と課題、及び次期（次年度）に向けての取組
わかるできるを実感する	①算数・国語の単元テスト知識・技能領域の平均点⇒低学年 85、中高学年80以上	学校	基礎・基本の定着（C層に対する支援を明確に）	①授業者は「話し方・聞き方4つの約束」の掲示物を使って、学期始めに学習規律の意識づけをしていく ②「沖代タイム」では、組織的なC層への支援をする	B	授業中の落ち着いた雰囲気を感じる。発表のスタイルを守り、自分の意見を上手に伝える様子が見られた。
	②児童アンケートで「学習の約束を守ることができた」肯定的評価⇒85%以上	家庭	家庭学習の学校との連携	○家族で、毎日の家庭学習の時間を話し合って決め、保護者は、励ましの声かけや簡単な丸付けをする	B	読書率を上げるための取り組みが必要。国語や社会の教科書あスラスラ読める音読の力や語彙力が身につけてほしい。
	③児童アンケート「授業がわかる」否定的評価⇒10%以下	地域	学習支援への参画	○学校運営協議会学習支援部は、月1回の放課後学習支援を実施する	A	現在5年生のみの取り組みだが、低学年へのお手伝いもよいと思う。放課後学習支援の活動をおうちの方にも知ってもらいたい。
言葉を通して伝え合う力をつける	①算数・国語の単元テスト思考・判断・表現領域の平均点 ⇒低学年85%、中高学年80%以上	学校	学年に応じた学び合いの場面設定と工夫、認め合える関係作り	①授業者は、児童に自分の考えを持たせるために、「ぶらぶらタイム」やペアの時間をもつ ②全学級で週1度の人間関係作りプログラムに取り組む	A	板書、教材教具、授業形態に担任の工夫や努力が見られ、児童の学び様子に表れている。
	②児童アンケート「自分の考えをもつことができた」肯定的評価⇒80%以上	家庭	親子のコミュニケーションの推進	○保護者は、週に1回はじっくり(10分以上)子どもの話に耳を傾け、親子の会話を楽しむ	A	大事な取り組みだと思う。
	③児童アンケート「友達の見や考えを聞いて自分の学習に役立てることができた」否定的評価 ⇒10%以下	地域	挨拶プラスワンの取組を行う	○学校運営協議会の生活・安全部会は、月1回のあいさつ運動を引き続き実施するため、関係者への周知活動をする	A	スマイルマンデーの取り組みに児童も地域の大人とのかかわりを感じていると思う。地域の人の周知活動が大切だと思う。
主体的に・協働的に取り組み、より良い生活をつくろうとする	①児童アンケート「学校生活の振り返りを行い、クラスで決めたためあてを意識して行動できたか」肯定的評価⇒85%以上	学校	自治的な児童会活動	○担任は、月めあての掲示と毎日の振り返り用紙を活用し、児童と一緒にめあてに取り組む場を設定する	B	振り返りを通して、自己をみつめてほしい。
		家庭	家族の一員としての自覚	○子どもは家庭で決まった役割を担い、保護者は子どもへ「ありがとう」「助かるよ」等の声掛けをする	A	家族で語り合う話題を提供している。
		地域	学校・地域行事への積極的参加	○保護者と地域の方々は、学校と連携し学校行事に参加する	A	読み聞かせの活動が本とであう入り口になれるようこれからも活動していきたい。
時間の創出	①超勤時間を前年比5%削減	学校	教育の質の向上のための業務の効率化	○行事や会議の精選とICTの活用により、業務効率化を図るとともに、ミニ研修を推進し、指導力向上と時間創出を同時に実現する	A	ICTを活用した取り組みが多くなっていることを知った。
	②【共通項目】ストレスチェックの健康リスク(量・コントロール)の値を100以下	家庭	働き方改革における学校業務の共通理解とサポート	○学校運営協議会での熟議を通じ、学校・家庭・地域の共育体制を確立し、働き方改革や教育活動の充実を両立させる	B	
	③【追加】生成AIを活用する教職員の割合80%以上	地域	働き方改革における学校業務への参画	○学校運営協議会等を通じた業務見直しの熟議と協力	A	地域ボランティアの拡大を募るために、ともに考え協力したい。教員の負担減はとても大切だと思う。協議会の支援内容の充実を進めたい。地域にはまだまだボランティアをしたい人材がいるはず。